



土岐医師会会長を務める中島均先生（中島医院院長）にお話を伺いました。

中島先生は、認知症サポート医として土岐RUN伴+（プラス）の実行委員長も務められています。

※土岐RUN伴+については5ページで詳しく紹介します。

**認知症は「脳の病気」
早期発見、早期治療が大切です**

認知症は恥ずかしいことではありません。誰もがなり得る病気なのです。また、認知症は治らないから仕方ないと思っていまいませんか。

認知症に対しては、早期発見、早期治療がとても重要です。なぜなら、早期に発見し治療することで認知症の進行を遅らせることができるからです。また、記憶や判断力が明確なうちに、本人や家族が今後の生活へ備えることができます。もし少しでも気になること

がありましたら、家族や身の周りの人に相談するか、かかりつけ医に相談することが重要です。家族の方よりかかりつけ医のほうが相談しやすいこともあるかと思えます。

そして、重要なことは我々医師も含めた多職種、地域の方の連携により認知症の方をサポートすることであると思います。皆さんが住み慣れた地域で、尊厳を持って一生を過ごしていただきたいと願っています。

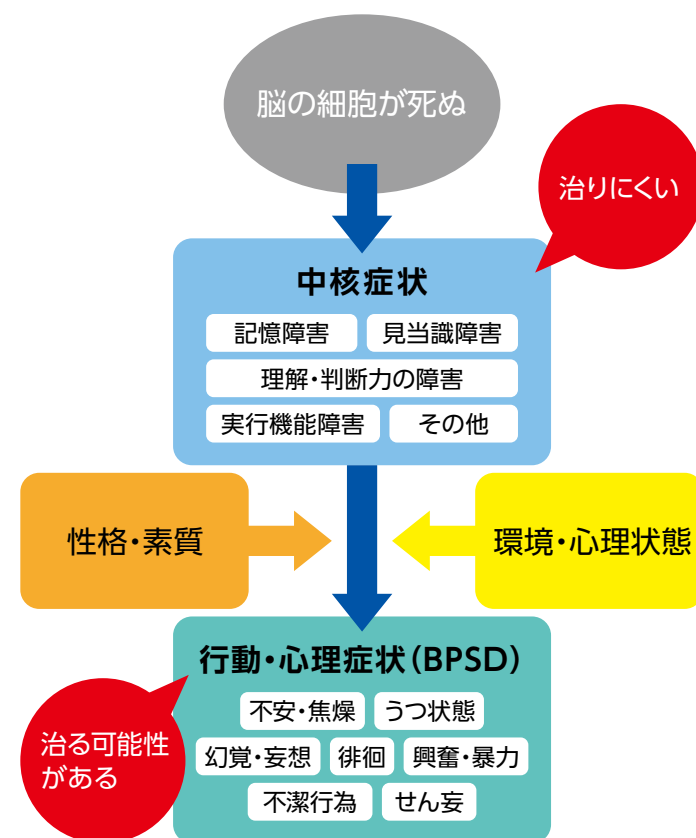
認知症の人の心の中



認知症は原因となるさまざまな病気によっていくつかの種類があり症状が異なります。主な症状に、物忘れや判断力の低下などがあり、日常生活に支障が生じてきます。

認知症になったからといって何も分からなくなる訳ではありません。今までできていた事ができなくなれば焦りを感じ、自尊心を傷つけられます。誰よりも本人が驚き、苦しんでいます。不安やいら立ちから暴力を振るったり暴言を吐く人もいます。その心の内を理解するのは容易ではありませんが、家族や周囲の人が本人の気持ちに寄り添い、温かいまなざしと優しい声掛けをすることで、症状（行動・心理症状）を軽くすることができるのです。

次のページからは、認知症と向き合っていく方法や、現在行われている取り組みについて、それぞれ3つの視点から紹介していきます。



【出典】 認知症サポーター養成講座標準教材
(NPO法人地域ケア政策ネットワーク全国キャラバンメイト連絡協議会作成)

認知症特集

安心して暮らせる町を目指して

もしあなたが認知症になったら、頼りにできるのは家族だけですか？
もしあなたの家族が認知症になったら、頼れる人や場所がありますか？
困ったときにみんなで支えあえる町をつくっていくのは、この町に暮らしている『私たち』です。

認知症は決して他人ごとではありません

認知症は誰でもなりうる可能性のある脳の病気です。
65歳以上では7人に1人、85歳以上では3人に1人にその症状があると言われています。

問 市地域包括支援センター（内線160）